

6. 円覚寺跡保存整備事業（文化庁国庫補助事業）

（1）事業の概要

円覚寺は、1972年5月15日に史跡指定された。1494年に琉球王国の尚真王が建立した禅宗様式の寺院であり、禅宗が琉球に伝播したことを示すとともに、急速な中央集権政策の中核のひとつとして、琉球王国の基盤形成に重要な役割を果たした貴重な歴史的証拠である。

第二次世界大戦までは伽藍のほとんどを備えていたが、戦災と戦後の開発で旧観を失った。しかし、放生池と石橋、石階段、石垣の一部は遺存し、戦後は琉球政府文化財保護委員会によって、総門・両脇門とそれに続く石垣、さらに弁財天堂と天女橋も修復された。

本史跡は、県営公園の範囲に含まれており、隣接する首里城跡の整備及び公園整備事業（国、県土木建築部）との整合性を図り、その保全と活用・公開等を図るため、国の補助を受けて保存整備事業を実施している。

当該事業は、平成9年度から平成13年度までの5ヶ年計画で遺構調査を実施し、その成果に基づいて、平成14年度より境内を取り巻く石牆の復元整備を実施し、平成26年度から三門復元に取り組んでいる。平成28年度から令和元年度までに三門復元に伴う実施設計を完成させた。令和2年度からは建築工事に着手し、これまでに三門石階段の修復工事、遺構保護工事、伐採、工事用道路の設置工事、基礎工事、1階斗栱の製作を実施した。

（2）令和5年度の整備事業の内容

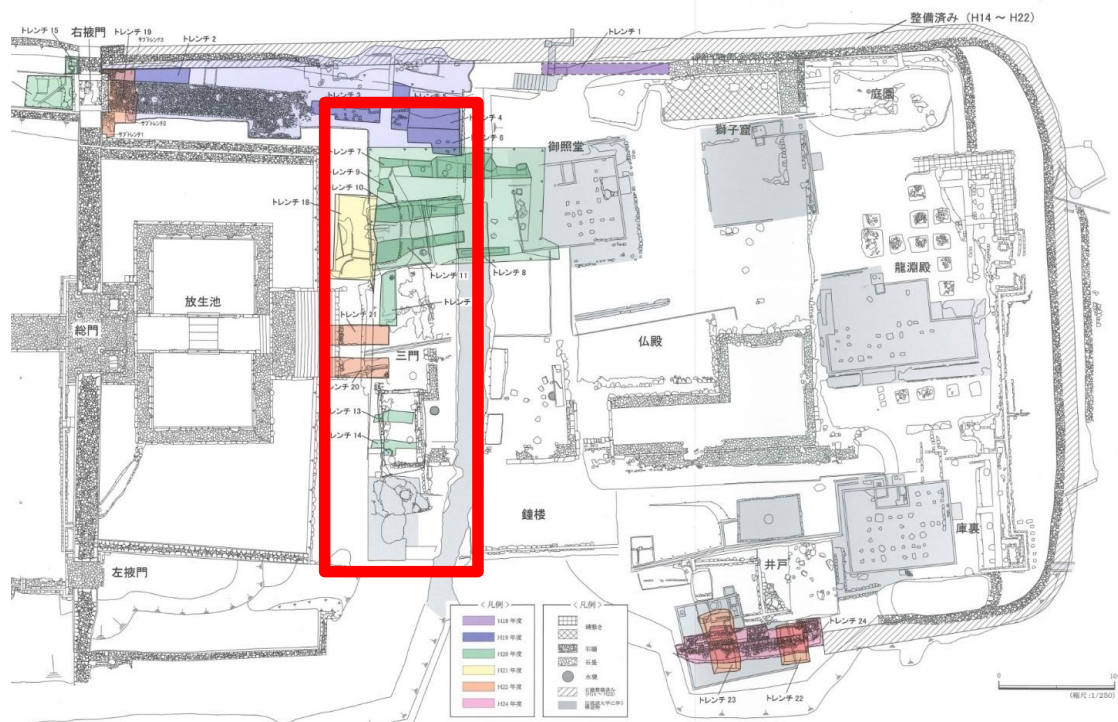
令和5年度は、三門本体の2階の斗栱22個の製作並びに、木鼻、実肘木の彫刻を行った。

（3）円覚寺跡保存整備事業の事業費並びに事業箇所の変遷

年度	事業箇所等	事業費	国費	工事請負費	委託料（設計・監理）
平成14年度	・石牆（土留め石積み） 修復工事（97.1㎡） ・工事用道路の設置	35,000	27,000	工事経費 28,822	委託料 5617 ・設計 4649 ・監理 968
平成15年度	・石牆（土留めの石積み） 修復工事（48.1㎡）	15,000	12,000	工事経費 9,681	委託料 4935 ・設計 3360 ・監理 1575
平成16年度	・石牆（土留めの石積み） 修復工事（28.1㎡） ・工事用道路の設置 ・既存石積みの解体	15,000	12,000	工事経費 8,999	委託料 5355 ・設計 3360 ・監理 1292 ・測量 704
平成17年度	・石牆（土留めの石積み） 修復工事（43.0㎡）	15,000	12,000	工事経費 8,999	委託料 5282 ・設計 2325 ・監理 2260 ・測量 697
平成18年度	・石牆（土留めの石積み） 修復工事（42.0㎡）	13,500	10,800	工事経費 8,999.55	委託料 3525 ・設計 1079 ・監理 2446
平成19年度	・石牆（土留めの石積み） 修復工事（30.0㎡）	14,986	11,988	工事経費 7,001	委託料 3865 ・設計 1575 ・監理 1786 ・測量 504
平成20年度	・石牆（土留めの石積み） 修復工事（29.4㎡）	14,407	11,525	工事経費 6,990	委託料 3705 ・設計 1680 ・監理 1695 ・化学測定 330
平成21年度	・石牆（土留めの石積み） 修復工事（27.0㎡）	14,340	11,472	工事経費 6,770	委託料 3771 ・設計 1785 ・監理 1470 ・伐採 516
平成22年度	・石牆（土留めの石積み） 修復工事（44.5㎡）	17,677	14,141	工事経費 9,921	委託料 3768 ・設計 1733 ・監理 1696 ・年代測定 340

年度	事業箇所等	事業費	国費	工事請負費	委託料
平成23年度	・ 三門地区地耐力調査	5,000	4,000	工事経費 0	委託料 ・ 地耐力調査 4,731
平成24年度	・ 石牆（土留めの石積み） 修復工事（17.5㎡）	14,442	14,068	工事経費 8,998	委託料 ・ 設 計 ・ 監 理 3,769 1,832 1,937
平成25年度	・ 石牆（土留め石積み）	17,587	14,068	工事経費 4,042	委託料 ・ 設 計 ・ 監 理 2,703 1,571 1,132
平成26年度	・ 三門復元基本設計	9,185	0	工事経費 0	委託料 ・ 設 計 8,640 8,640
平成27年度	・ 三門復元基本設計	1,056	844	工事経費 0	委託料 ・ 測 量 713 713
平成28年度	・ 三門復元実施設計 ・ 三門遺構調査	18,310	14,646	工事経費 0	委託料 ・ 実施設計 ・ 磁気探査 13,360 12,852 508
平成29年度	・ 三門復元実施設計 ・ 遺構保護に伴う盛土造成	9,964	7,971	工事経費 0	委託料 ・ 実施設計 5,724 5,724
平成30年度	・ 三門復元実施設計 ・ ボーリング調査	13,844	11,075	工事経費 0	委託料 ・ 実施設計 13,165 13,165
令和元年度	・ 三門復元実施設計 ・ 琉球政府設置標柱撤去	27,938	22,350	工事経費 0	委託料 ・ 実施設計 ・ 標柱撤去 23,540 23,320 220
令和2年度	・ 石階段修復工 ・ 遺構保護工（三門・境内）	26,653	21,322	工事経費 21,670	委託料 ・ 監 理 3,960 3,960
令和3年度	・ コンクリート基礎工 ・ 石材及び木材購入等	106,454	85,163	工事経費 102,703	委託料 ・ 監 理 3,716 3,716
令和4年度	・ 三門一階の斗栱の加工 ・ 木材購入等	85,547	69,237	工事経費 83,644	委託料 ・ 監 理 2,849 2,849
令和5年度	・ 三門二階の斗栱の加工	38,976	31,180	工事経費 37,642	委託料 ・ 監 理 1,276 1,276

令和5年度 円覚寺跡保存整備事業



……令和5年度整備箇所(三門復元整備工事箇所)

7. 新たに国の指定になった文化財

(1) 重要文化財の指定〈古文書の部〉

① 銘苧家文書（四通）

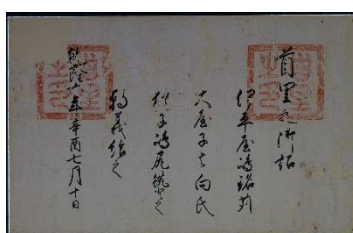
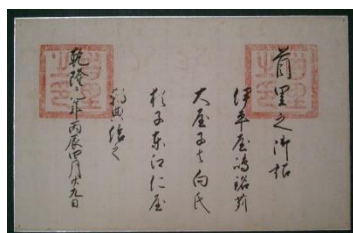
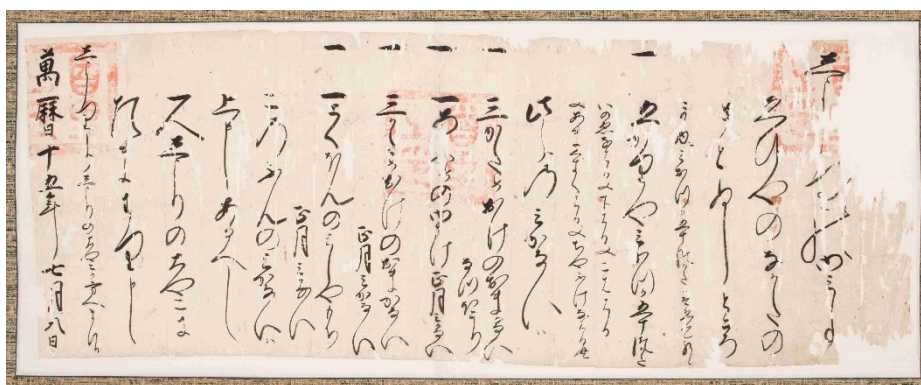
所 有 者：沖縄県

法 量：①縦 27.7 cm 横 76.1 cm ②縦 27.4 cm 横 43.0 cm
③縦 27.4 cm 横 43.7 cm ④縦 25.0 cm 横 44.1 cm

指定をする理由： 銘苧家は、伊是名島出身の第二尚氏の祖尚円（1415～1476）の叔父の子孫であり、歴代が銘苧大屋子を務め、王家に関する儀礼を司祭した。銘苧家文書は、「御朱印」「御印判」と呼ばれた琉球国王発給の朱印状（琉球国王朱印状）3通を中心とする。琉球史研究上、「辞令書」とも呼ばれていた文書である。内訳は、古琉球の朱印状1通と、近世琉球の朱印状2通、尚円生誕地を描いた絵図1通である。

本文書は、第二尚氏の王統に連なる銘苧家に伝来したものである。とくに古琉球の朱印状は、戦災により数多くの史料が失われた沖縄において、古琉球の貴重な文字資料として古文学および琉球史研究上においてたいへん重要である。（琉球・第二尚氏時代・16～19世紀）

官 報 告 示：令和5年6月27日付け文部科学省告示第58号



② 琉球国王朱印状〈大首里大屋子充/万曆二十三年八月廿九日〉

所 有 者：沖縄県

法 量：縦 28.7 cm 横 83.7 cm

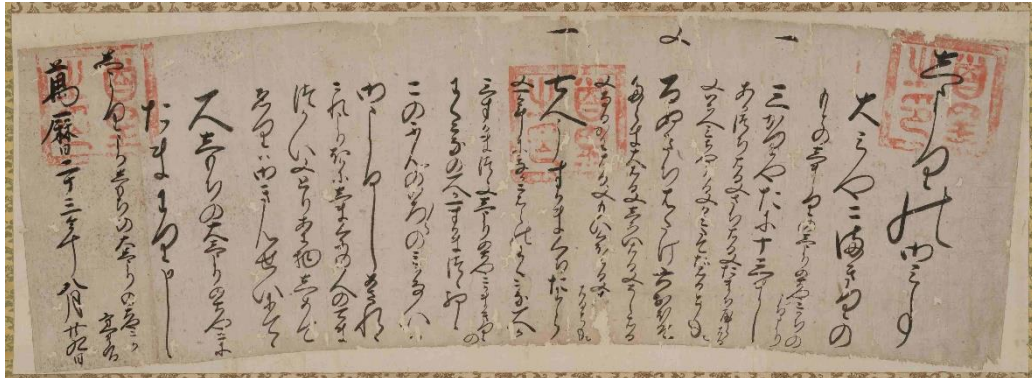
指定をする理由： 琉球国王朱印状は、国王が官人等を任用する際や、知行地を給与する際に発給した公的な文書であり、国王の朱方印（「首里之印」）が捺されていることから「御朱印」「御印判」と呼ばれていた。琉球史研究上、「辞令書」とも呼ばれていた文書である。

本状は、国王から宮古島の「下地の大首里大屋子」へと与えられたもので、現存する朱印状中、唯一の三紙継ぎで本紙の全長が最も長く、古琉球の宮古島に関する唯一のものである。

古琉球研究上の第一級史料と評価されており、戦災により数多くの史料が

失われた沖縄において、古琉球の貴重な文字資料として古文書学および琉球史研究上において大変重要である。(琉球・第二尚氏時代・16世紀)

官 報 告 示：令和5年6月27日付け文部科学省告示第58号



(2) 重要文化財の指定〈歴史資料の部〉

①上江洲家関係資料

所 有 者：個人

点 数：1905点

指定をする理由： 上江洲家は17世紀末以降に久米島の西半分にあたる具志川間切の地頭代を歴代務めた家である。本資料群は、同家伝来の一括資料で文書・記録類1589点、地図・絵図類31点、典籍類114点、書画類82点、器物類89点から構成される。

中心を占める文書・記録類は、琉球王府との関係を中心に同家の歴史を明らかにする家譜等がある。書画類は、久米島が清国との航路上の要衝にあったことから冊封使や琉球王国の使者が遺した書跡がまとまって伝来する。器物類は地頭代の功績を賞賛して王府から下賜された掛床が注目される。第二次世界大戦による被害のため、第二尚氏時代以来の家資料がまとまって伝存することは希有であるなか、本資料群は、琉球王国による離島支配のあり方、第二尚氏時代から昭和時代にいたる同家の家の経営や、生活文化などを伝え、政治経済史、文化史上などに学術的価値が高い。(第二尚氏～20世紀)

官 報 告 示：令和5年6月27日付け文部科学省告示第58号



(3) 重要無形文化財の追加指定〈芸能の部〉

①重要無形文化財「琉球古典音楽」の保持者

保持者名 : 大湾 清之

生年月日 : 昭和 21 年 11 月 19 日

住 所 : 沖縄県那覇市

説 明 : 大湾氏は、昭和 21 年に沖縄県中頭郡読谷村に生まれ、野村流三線演奏家の父のもと幼い頃から伝統音楽に親しみ育ち、同 35 年、琉球古典音楽野村流の歌三線を学び始めた。昭和 41 年に琉球古典音楽安富祖流の歌三線を宮里春行に師事した後、安富祖流演奏家として研鑽に励み、同 43 年に初舞台を務め、同 54 年に教師免許、同 62 年に師範免許を取得した。平成 11 年には琉球古典音楽安富祖流の伝統的技法を高度に体現しているとして、沖縄県指定無形文化財「沖縄伝統音楽安富祖流」保持者に認定された。また昭和 49 年には大湾清之琉球古典音楽安富祖流研究所を開設し、後継者の育成も開始した。奥行きのある伸びやかな歌声と、細部まで行き届いた確かな三線演奏技法によって、琉球古典音楽各曲を品位をもって表現する同人の演奏は高く評価されており、国立劇場おきなわ主催公演をはじめとする多くの舞台に出演している。また同人は、琉球古典音楽の理論的研究にも取り組み、研究成果に基づき、安富祖流で傳承が途絶えた「仲節」「長チャンナ節」等の復曲も行っている。このように優れた演奏活動を展開する一方、平成 18 年から沖縄県立芸術大学助教授、同 22 年からは教授に就任し、自身の弟子ばかりでなく広く後進の指導にあたり、斯界の振興発展に貢献している。以上のように、同人は、琉球古典音楽の技法を正しく体得し、かつ、これに精通するとともに、その技法を高度に体現している。

官 報 告 示 : 令和 5 年 10 月 8 日付け文部科学省告示第 1084 号

(4) 重要無形文化財の指定及び保持者の認定〈工芸技術の部〉

名 称 : 首里の織物

保持者名 : 祝嶺 恭子

生年月日 : 昭和 12 年 2 月 26 日

住 所 : 沖縄県那覇市

説 明 : 祝嶺氏は、沖縄県那覇市に生まれ、高等学校を卒業後上京し、女子美術大学短期大学部図工科（現 造形学科）に進学した。昭和 34 年に同校を卒業後、同大学芸術学部美術学科工芸科（現 デザイン・工芸学科工芸専攻）に編入、染織作家・柳悦孝の指導の下、幅広い染織技法を学んだ。昭和 37 年に郷里に戻ると、琉球政府立首里高等学校（現 沖縄県立首里高等学校）染織科に勤務する傍ら、首里の織物をはじめ、沖縄の伝統的な織物の研究と技術の取得に努め、首里の織物の技法を幅広く修得した。同人は、国内外に残された沖縄の伝統的な染織品の調査・研究も精力的に行っている。平成 4 年には、文部省在外研究員として、ベルリン国立民族学博物館所蔵の琉球の染織品の仔細な調査を行った。帰国後、調査結果を基に、衣裳の復元製作を行い、さらに自らの創作へ色彩や意匠を発展的に展開させるなど、首里の織物の技法・表現の研究を重ね、技の錬磨に努めて、伝統的な首里の織物の技法を高度に体得した。

官 報 告 示 : 令和 5 年 10 月 8 日付け文部科学省告示第 1084 号

(5) 記念物の新規指定

①サンニヌ台

種 別：天然記念物及び名勝

指 定 地：沖縄県八重山郡与那国町字与那国阿佗尼花 1737-2 外 3 筆等

指 定 面 積：317,913.42 m²

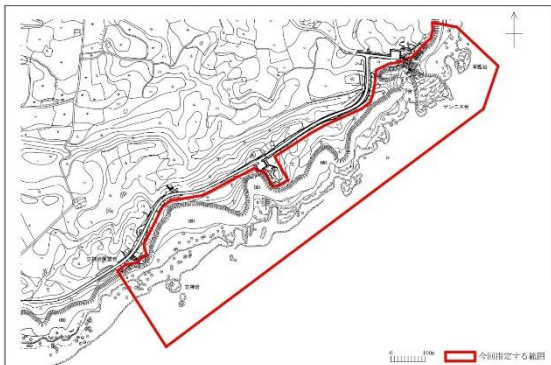
所有者・占有者：与那国町等

指定をする理由： サンニヌ台は与那国島の南東部に位置するおよそ軍艦岩から立神岩までを含む約 1.3 km の範囲の海岸である。砂岩を主体とする岩石海岸で、風化・侵食及び活断層により地層面に沿って剥がれた層理と直線的に地層面を破断する節理がくり返してみられる。その地層には海底に生息していた様々な生物の生活跡（生痕化石）が極めて良好に保存されている。また、正断層の構造を詳細に観察できる露頭が良好に保存されており、逆断層ないしは横ずれ断層が多い日本列島では極めて貴重な場所である。他にも塩類風化が進行して形成される蜂の巣状の構造がみられる。このようにサンニヌ台は与那国島の成り立ちを知る上で極めて重要である上、岩石海岸の風化・侵食のプロセス、断層構造、生痕化石の観察地として学術的に貴重である。

サンニヌ台一帯は連続するダイナミックな断崖と階段状の地形で形成されていることから、与那国島を代表する景勝地として親しまれている。指定地の東方には軍艦岩及び昭和 49 年に沖縄県の名勝に指定されたサンニヌ台、そこから 1 km 余り続く断崖のカニマチサヤと呼ばれる海岸、そして西端には立神岩がありそこには伝承も受け継がれている。

このように、サンニヌ台は学術的な価値に加え、海岸一帯が風致景観に優れた名勝としての価値を有しており、与那国島の自然や文化を知るうえで貴重な場所である。

官 報 告 示：令和 6 年 2 月 21 日付け文部科学省告示第 18 号



指定範囲図



サンニヌ台から立神岩に相対する海岸



正断層の露頭

(6) 記念物の追加指定及び名称変更

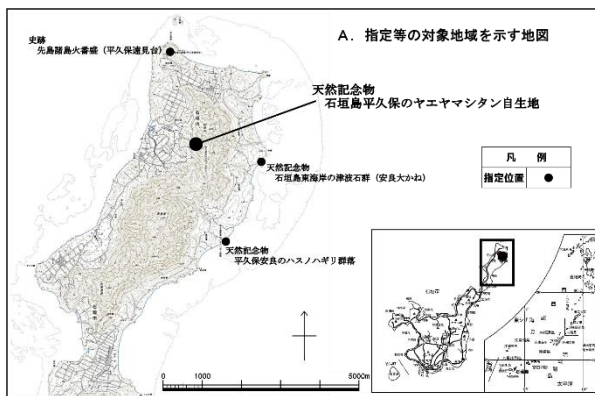
①石垣島平久保のヤエヤマシタン自生地

種 別：天然記念物
指 定 地：沖縄県石垣市字平久保
指 定 面 積：8,566.32 m²
所有者・占有者：石垣市

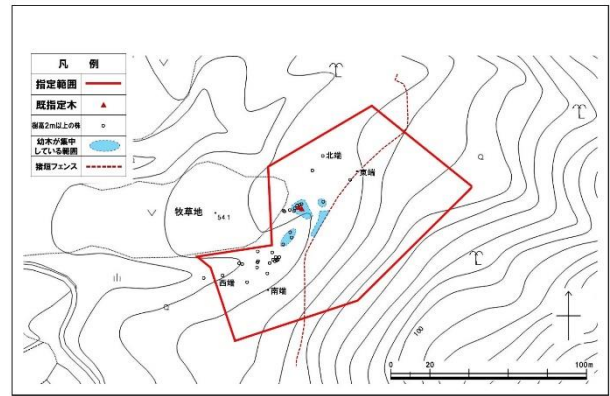
指定をする理由： ヤエヤマシタンは高さ 20m 余りにもなるマメ科の落葉高木で、その仲間は東南アジアに広く分布しているが、石垣島は自生地の北限となっている。当該地には昭和 34 年に琉球政府により天然記念物に指定され、昭和 47 年の本土復帰に伴い国指定の天然記念物となった 2 本の巨樹「平久保のヤエヤマシタン」があるが、樹齢 100 年から 150 年とされる老木であることに加え近年害虫被害がみられ、長年石垣市教育委員会により樹勢回復に努めている。今回追加指定となった場所は、2 本の既指定木を中心に種子をつける成木や幼木などの後継木が多数生育しており、ヤエヤマシタンの良好な自生地となっている。

今回の追加指定により、巨樹 2 本に加え後継木が生育する環境の維持向上のために自生地一帯を保護するものである。

官 報 告 示：令和 6 年 2 月 21 日付け文部科学省告示第 39 号



位置図



指定範囲図



既指定の巨樹 2 本



幼木が集中している範囲

8. 指定文化財管理

(1) 国指定文化財管理事業

① 事業目的

文化財保護法の規定に基づき指定された重要文化財及び名勝等の維持管理の万全を期する。

② 事業内容

1) 防災設備保守点検等

指定文化財である建物等に設置した自動火災報知設備、消火設備など及びこれらに準ずる防災の保守点検等

2) 小修理

指定文化財である建物等の維持管理のための小修理

3) 名勝等庭園の荒廃防止及び民家等の環境整備

ア、名勝等に指定された庭園の適正な環境を維持するための除草、剪定、整姿等

イ、指定文化財である民家等の屋敷構え等の適正な環境を維持するために行う除草、剪定等

③ 事業主体

沖縄県

④ 事業の実績

(単位:千円)

文化財の種別	名 称	市 町 村	所 有 者	令和5年度実績額	総事業費	備 考
国指定重要文化財	中村家住宅	北中城村	中村国宏	371	24,408	(昭55～令和5)
	上江洲家住宅	久米島町	上江洲智一	482	22,537	(昭55～令和5)
	石垣氏庭園	石垣市	石垣長敏	130	6,039	(昭55～令和5)
	仲村渠樋川	南城市	仲村渠区	156	3,511	(昭55～令和5)
合 計				1,139	56,495	

9. 文化財愛護事業

(1)「私たちの文化財」図画作品募集

5月中旬～9月下旬の期間募集し、小学校1・2学年37点(16校)、小学校3・4学年73点(29校)、小学校5・6学年78点(22校)、中学校71点(11校)、高等学校16点(6校)合計275点(応募校総数60校)の応募があった。

審査会:令和5年9月26日(火)14時～17時 沖縄県立総合教育センター多目的棟講堂

審査員(敬称略):渡久地 伸一(沖縄県立総合教育センター 研究主事)

根路銘 まりえ(沖縄県教育庁県立学校教育課 指導主事)

大城 悦子 (沖縄県美術教育推進協議会 会員)

安次嶺 勝江(沖縄県美術教育推進協議会 会員)

審査結果は下記のとおりで、表彰式及び入賞作品の展示については、10月31日(火)県民ホールで最優秀賞・優秀賞のみ表彰式を行った。そのため、他の入賞者の表彰は学校での伝達表彰となった。

賞	小学校1・2年の部	小学校3・4年の部	小学校5・6年の部
最優秀賞	大濱 誌友 (石垣小)	濱中 凜子(カトリック小)	豊里 環和(白保小)
優秀賞	金城 琴羽 (カトリック小) 摩文仁 悠心(登野城小)	矢野 公一(カトリック小) 宮城 新太(カトリック小)	上原 希子(カトリック小) 石嶺 真鷲祐(港川小)
佳作	宮城玲緒奈 (カトリック小) 大城 結花 (川崎小) 上里 優護 (高原小) 當真 好寿 (松田小)	嘉弥真 璃紅(白保小) 川平 高士(さつき小) 江川 結芽(大浜小) プリド アナリア(城岳小)	安形 凌一(大謝名小) 池村 純愛(大謝名小) 長堂 凜寿(大謝名小) 伊前田 青杜(カトリック小)
入選	8名	8名	8名

賞	中学校の部	高等学校の部
最優秀賞	吉田 ひすい(鏡原中)	藤田 瑞希 (開邦高)
優秀賞	照屋 乃雅(浦添中) 小浜 萌結(浦添中)	名嘉原 盛禰 (小禄高) 當真 大煌 (南風原高)
佳作	與那城 希々佳(浦添中) 大野 雄太郎 (浦添中) 島袋 つばき (浦添中) 宮城 沙亜也 (金城中)	大屋 有香 (小禄高) 宗像 咲来 (小禄高) 野原 万愛 (開邦高) 與那嶺 凜香 (開邦高)
入選	8名	8名

(2)令和5年度文化財保護強調週間ポスター

11月1日～7日の文化財保護強調週間の啓発のため、令和4年度「私たちの文化財」図画作品募集高等学校の部最優秀作品「弁財天堂と円鑑池」〔當真 大煌さん 南風原高等学校1年(受賞当時)〕を原面にポスターを作成し、市町村教育委員会、学校、公民館、博物館・文化財関係施設などに配付した。